

高野山真言宗 光林寺

位牌堂 内覧会



高野山 真言宗 光林寺沿革

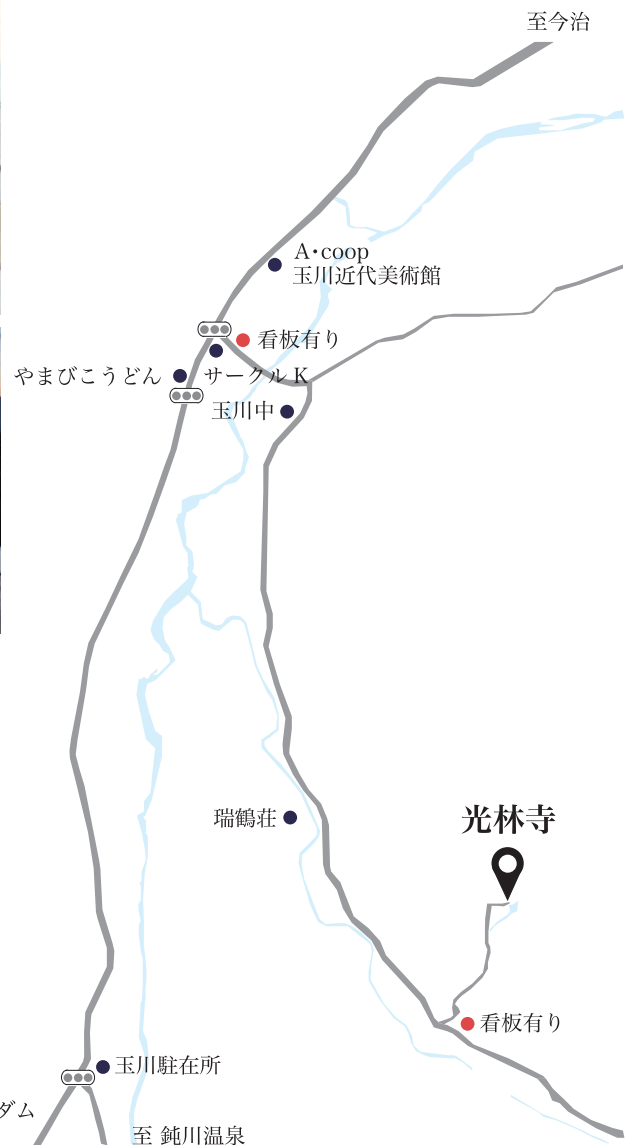
光林寺は大宝元年(701)文武天皇の勅命を受けた徳藏上人によって、光林寺の南約7Kmの奈良原山山頂にあった蓮華寺と共に開かれました。徳藏上人は第十五代応神天皇の御世に来朝された日月君(ゆづきのきみ)の子孫と伝えられ、法相宗(ほうそうしゅう、奈良の興福寺と薬師寺を大本山とする)と、三論宗(さんろんしゅう、現在は東大寺に伝わる)を修めた大徳であったので、開山当初より約百年間程は法相宗と三論宗の二宗兼学の寺でありました。光林寺の住持、圓職上人代の大同元年(806)唐より帰国途中の空海上人(弘法大師)が、奈良原山の蓮華寺に登られて密教の修法をされました。また、空海上人(弘法大師)は光林寺にしばらく止住されて密教を伝授されました。これより後、光林寺は法相・三論兼布の寺であったのを密教弘通の真言宗の寺となったと伝えられています。

光林寺は、特に南北朝時代の大波、明治初めの神仏分離の大波などを受けながら、1316年の歴史を歩んでいます。

位牌堂について

約1300年の歴史を誇る、由緒ある寺院で位牌堂をつくる、という現代的な課題。寺院施設の一連の再計画の第一歩目となる本計画で取り組むのは、現代の素材を使って、これからの寺院をつくる、ということ。

鉄骨造でつくられる本体に袴のように約800本の桧の化粧垂木を掛けわたし、ランダムにガラスを嵌め込みます。訪れた方々が気持ちを整えられる、光の回廊をつくる。その光の色は周囲にある木々によって、一年の中で変化していきます。また、袴部分は鉄骨の本体部分を守る役割も担います。時に強風雨もふきあれる敷地。鉄骨部分の外壁の止水能力にたよらない、長持ちする建物とするために部材や屋根葺材の取り替え可能な袴部分は重要です。



10月15日(日)

10:00～日没まで

〒794-0116 今治市玉川町畑寺甲 530 ※お車は光林寺駐車場にお停め下さい(約50台)

光林寺位牌堂 新築工事

施主： 宗教法人 光林寺
設計監理： 奥野崇建築設計事務所
施工： 有限会社 礪工房
造園： 玉川造園